

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	菜の花 東苗穂館2F	評価実施年月日	平成20年11月1日
評価実施構成員氏名	葛西 清仁、久保 紀美子、高橋 ひとみ、佐藤 美樹、朝倉 眞由美、中村 峰子 田畑 幾代、折館 伶子		
記録者氏名	葛西 清仁、久保 紀美子	記録年月日	平成20年12月25日

北海道

は外部評価項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>「住み慣れた地域での生活を笑顔で送れるよう支援します。」「地域とのふれ合いを大切にしたい暮らし」の理念を掲げている。</p>		
<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>スタッフルームや、玄関に掲示している。ネームプレート裏に理念を入れていつでも確認出来るようにしている。また朝のミーティングで理念を読み上げ再度確認している。</p>		
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>玄関に理念を掲示しご家族様にも見えるようにしている。また菜の花新聞に理念を掲載、さらに推進会議や家族会でも理念について話をしている。</p>		
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>散歩をしながら近隣の方と挨拶を交わし、気軽に声を掛け合っている。</p>	○	気軽に立ち寄って頂けるようにしていきたい。
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>町内会の活動にご利用者様と出席している。また町内での防災訓練や花壇の花植えにも参加している。</p>		
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>ホームヘルパーの実習を受け入れている。また町内会の総会等へ参加の際に、介護について気軽に相談して頂きたい事を伝えている。地域住民からの入居相談が多くなってきている。子供110番の家となっている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>スタッフに自己評価表を配布。全員で確認している。</p>	○	外部評価の結果を報告し、サービスの質の向上に取り組んでいきたい。
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、ホームでの取り組み内容やご利用様が、地域に受け入れて頂くための話し合い、協力やアドバイスを頂きサービス向上に活かしている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>地域包括支援センターや介護保険指導係りに提出書類等の相談をしている。又、札幌市主催の管理者会議に出席し、疑問点を確認している。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>権利擁護事業や成年後見人に関する制度については研修会に出席し学んでいる。ご利用者様で必要な人に対し支援している。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p> <p>虐待の研修に参加し学んでいる。またホーム内でも虐待のない介護を実践している。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>契約時、本社職員と共に十分説明しご家族様などが不安や疑問点がないように努めている。また解約の際はご家族様と話し合い、しっかり納得していただいた上で解約している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご利用者様の意見、苦情、不満についてはしっかり受け止め、ユニット会議や申し送りなどにて改善に向け話し合い早期に対応している。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	来館時にも健康状態や近況報告をする。病院受診の結果は必ず電話で報告している。更に状況によっては直接お電話で報告する事もある。また毎月発行している菜の花新聞で新人職員の紹介をしている。金銭管理については個人の出納簿で出入金の内容を定期的にご家族に郵送している。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会や運営推進会議など意見を聞く機会を設けている。アンケートボックスを設置し、苦情処理窓口がある事もご家族様にもお伝えしており、更に見やすい場所に掲示している。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月一回のユニット会議で職員の意見、要望を聞き検討している。また2ヶ月に1回の管理者会議やリーダー会議の中で職員の意見や提案を聞く機会が設けられている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	ご利用者様の状況やレクリエーションなど必要な時に職員が確保出来るよう調整している。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動、辞職がやむえない時はご利用者様の引継ぎを徹底しダメージを防いでいる。また新人職員はご利用者様一人ひとりに紹介し、ご利用様が早く馴染みの関係になれるよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p> <p>本社に教育課があり新採用研修、スタッフ研修、管理者研修、リーダー研修が実施されている。また外部研修にも参加出来るよう運営者は取り組んでいる。介護福祉士、介護支援専門員などの受験者に対し勤務調整を行っている。</p>		
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p> <p>区の管理者会議に出席している。地域のグループホームとの交流を行っている。近くのグループホームに見学に行き、更にご利用者様と一緒にクリスマス会に参加させて頂き楽しんできた。</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p> <p>必ず休憩を取れるように時間調整している。また、ゆっくり休めるスタッフルームも設置している。</p>		
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p> <p>資格習得に向けて支援している。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>入居前にご本人と面談し不安などをよく聴くように努めている。直接見学に来てから入居されるご利用者様もいる。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>ご家族様の不安な事などをゆっくり傾聴し、安心して頂けるよう努力をしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談を受けた時は必ず話し合い方向性を検討している。また必要に応じて、他事業所やご利用者様、ご家族様も交えて検証出来るように努めている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	出きる限り入居前に見学に来て頂き、レクリエーションや食事を一緒に食べてもらいながら、グループホームの雰囲気に馴染んで頂けるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	ご利用者様と小さな喜びや楽しみを共有出来るように雰囲気作りに心がけている。また、支えあう気持ちを大切に、人生の先輩として敬う心を常に持ちながら、対応に努めている。更にご利用者様より料理方法や味付け、畑仕事など教えていただいている。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族様と連携を密にして普段の様子などを来館時に報告し、ご家族様から情報や提案を頂き共に解決策や改善案を話し合っている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	生活基本情報(センター方式)からの情報をはじめとし、ご本人とご家族様の関係を理解するよう努めている。またご家族様と一緒に時間を過ごせるよう行事にも参加して頂いている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	外出希望があった時はご家族様と相談し、外出できるように努めている。またご家族様と買い物や墓参り、誕生会、理美容などで出かけられる事もあり支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	スタッフがご利用者様の人間関係を把握しており、トラブルになる前に対応したり会話がスムーズに行えるよう話題を提供している。利用者様同士の関係が円滑に行くよう努めている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	医療処置が必要で退去された方に対し病院へお見舞いに行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	暮らし方の意向や希望などを色々な場面を通して把握出来るように努めている。また日々の表情や言動などを観察し、小さなサインからも希望や意向を察知出来るように努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	センター方式を導入している。入居時にご家族様にセンター方式Aシートを記入して頂いている。来館時もお話を伺い、個々の生き方、暮らし方、環境に少しでも近づき安心した生活が送れるよう努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	生活状況を理解し出来る事、出来ない事を見極めている。また出来そうな事はスタッフと一緒に行って頂き、出来る力を失わないよう取り組んでいる。	○	ご利用者様は職員が考えている以上に出来る事があると思われるので、今後も出来そうな事に挑戦していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ご利用者様、ご家族様より情報や意向を聞き、月1回のカンファレンスでアセスメント、モニタリング結果を話し合い、課題や介護サービスについて検討し、介護計画を作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	基本的には3ヵ月毎に評価、見直しをしている。心身その他変化が見られた時や退院時の状態に応じてケアプランも見直し、新たな介護計画を作成している。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人ファイルに日々の生活の様子や、排泄、水分、バイタル等の身体状況も記入し情報を共有し活用している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	病院受診時はホームの車を利用している。外食や買い物等ホームの車では乗車出来ない時はリフト車を利用している。医療連携加算を取っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	消防署の協力により防火訓練を行っている。また老人クラブや音楽療法のボランティアにも来て頂いている。	○	ボランティアだけでなく地域の方々との触れ合いをもっと多くしていきたい。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	訪問理美容、訪問歯科のサービスを利用している。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に参加して頂いている。地域の周辺情報の交換、入居相談等の協力関係を築いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援をしている。	ご家族様、ご利用者様の同意を得てかかりつけ医院や訪問診療を決めている。またご家族様、ご利用者様が医療機関に対しての要望などがある時はかかりつけ医に伝え、適切な医療が受けられるよう支援している。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	かかりつけ医や、訪問診療の担当医に相談し専門医に紹介状を書いて頂き受診している。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護職である介護部長や訪問看護ステーションの看護師に相談し、日常の健康管理の支援をしている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時病院を訪問し状況を確認している。また担当医、ご家族様も含め退院に向けカンファレンスを開催する事もあり、早期退院に向け連携を取っている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入居時に重度化した時の対応指針の同意書を頂いている。更に状態の変化時、ご家族様の気持ちの変化やご利用者様の思いに配慮しながら支援している。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	ご家族様の意向を聞き、できるだけホームで過ごして頂けるようチームで支援に取り組んでいる。	○	24時間対応の医療機関を獲得している。細部にわたり検討し変化に備えて準備や連絡体制が万全になるよう取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>49 ○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>アセスメントやサービスの支援内容、注意点について情報交換を行いこれまでの暮らしが継続されるように連携に努めている。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>50 ○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>ご利用者様の誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応に注意している。個人情報 は人目に触れないよう管理している。</p>		
<p>51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>ご利用者様の状況を見ながら声掛けしている。自己決定が困難な方に対しては個々の理解力に合わせて、出きるだけ希望や自己決定が出来るように対応している。</p>		
<p>52 ○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>ご利用者様が一人ひとりのペースを大切にしながら、好きなように時間を過ごして頂けるよう支援している。集団レクリエーションをする時も決して無理強いせず、ご本人の意向に沿って支援している。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>53 ○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>洋服はご利用者様が選んで着替えていただいている。選択が困難な方は日頃の状況から好みそうな物をスタッフが選び、対応している。訪問理美容が月1回来られているが、馴染みの美容室に通っている方もいる。また外出時お化粧されているご利用者様もいる。</p>		
<p>54 ○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>調理や味付けを手伝ってくださる方や茶碗拭き、テーブル拭き等、ご利用者様の状況にあったお手伝いをして頂いている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	今の所お酒、煙草の習慣がある方はいない。お茶の嫌いな方や、甘い飲み物が好きな方もいるので、好みの物を把握し用意している。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄チェック表を活用しトイレ誘導している。パット使用者が多いので排泄パターンを把握し失禁のないよう、また気持ちよく排泄できるよう支援している。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	週2回以上入浴している。ゆっくり入浴が出来るように支援している。また入浴を好まない方には声掛けのタイミングを見て入浴して頂けるよう取り組んでいる。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	好きな時間帯に休んで頂いている。眠れない時は無理に寝て頂くのではなく、お話を傾聴し安心して休んで頂けるよう取り組んでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	毎日の役割が出来ている。料理、掃除、茶碗拭き等個々の生活歴や力を活かし、自信を持ち楽しみながら行って頂けるよう支援している。		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族様同意のもと、紛失しても良い小額のお金を持っているご利用者様もいる。また、お買い物時には商品を自ら選んで頂き、支払いもしてもらえよう支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	個別の希望に応じて対応している。夏は畑での作業や散歩、買い物、外食など外に出られるよう支援している。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	外出行事を実施している。遠方になると個別ではあるがご家族様と共に出掛けられるよう支援している。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	自由に出来るようになっている。電話の使い方や電話番号がわからない方にはスタッフが支援している。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時間は決まっておらずご家族様の都合の良い時間に来て頂いてる。また、ゆっくりお話出来るよう居室やソファにご案内し飲み物をお出ししている。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	拘束はないが言葉の拘束に注意している。また拘束に該当するかを必ず確認しながら介護に取り組んでいる。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間以外は鍵をかけていない。センサーを設置しているがセンサーには頼らず見守りを強化している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	常に所在確認を行っている。ご利用者様の行動が把握出来るように記録の場所を考慮しながら安全に配慮している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	薬についてはスタッフルームにて保管。漂白剤や洗剤等危険な物は施錠した場所に保管している。日常的に使用する個人の洗顔石鹸、歯磨き粉など日常的に使う物は個々の状態に応じて対応している。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	インシデントレポートやひやりはっと報告を提出し、事故原因や事故防止策を話し合い、事故防止の取り組みをしている。毎日の運動、食前の嚥下体操、誤嚥防止に取り組んでいる。服薬介助時には誤薬防止のため氏名、日付、時間を声を出して確認している。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	新人職員研修やスタッフ研修など本社主催の研修でも緊急時の対応について受講している。緊急対応マニュアルを作成して目に付く場所に掲示している。	○	緊急時に適切で迅速に対応出来る様に今後も定期的に訓練を行うよう取り組んでいきたい。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	定期的に消防署の指導の下、避難訓練をしている。近隣住民や町内会の協力を得て災害時の連絡網もでき、町内会に配布している。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	退院後、また病状悪化時はご家族様に連絡し起こりうる事故について対応方法も話している。個々に起こりうるリスクについてご家族様に説明し、自由に生活して頂くための対応策を話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日バイタル測定、水分、排泄状況のチェックを行い、また日々の観察を怠らず早く変化に気づくよう努めている。少しでも変化が見られた時は職員間でも確認しあい、異常時には迅速な対応に努めている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の処方内容は見やすいように個々のファイルに入れてある。医療機関や薬局の薬剤師に副作用についても相談している。症状の変化は無いが日常的に確認し支援している。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	排泄チェック表を活用し個々にあったトイレ誘導をしている。また、ヨーグルトや牛乳など飲用して頂いている。更に毎日体操も実施し便秘が予防出来るように努めている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	個人の状態にあわせ毎食後歯磨きを実施。自力で出来ない方はスタッフが介助している。訪問歯科からの指導もして頂いている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養士によりカロリー計算された献立を基本としている。また食事のメニュー、量や味の調整、形態を変えてご利用様が好むように調理している。食事量や、飲水状況を毎日チェック表に記録し職員間で情報を共有し支援している。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防マニュアルを作成している。インフルエンザワクチンのご利用者様、職員全員が接種している。ノロウイルス対策として来館時ご家族様にうがい・手洗いをして頂いている。スタッフ、ご利用者様の手洗い・うがいの徹底、ハイターによる手すり・ドアノブ等の拭き掃除を1日3回実施している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	まな板、包丁、布巾等調理器具は毎日塩素消毒している。食品管理は冷蔵庫・冷凍庫内の賞味期限を含めスタッフと栄養士が二重にチェックしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	玄関先には花壇がある。手作りの表札も設置している。		
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	季節に応じて装飾を行っている。ご利用者様が喜ばれる行事写真やレクリエーションで手作りした物、趣味で描いた絵を飾っている。更に対面キッチンになっており調理の音や匂いを感じることができ、生活感がある暮らしになるよう工夫している。		
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	テレビ前にソファーを設置しておりソファーで横になったり談笑している。廊下にはいつでも休めるようベンチを設置している。		
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	ご自宅にあったタンスやベット、鏡台、仏壇、裁縫道具等、好みの物を居室に置いている。ご家族様やお孫さんの写真を貼ったり居室をご自分なりに飾り、心地よい空間作りが出来るよう努めている。		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	温度計、湿度計を見ながら暖房の調整を行っている。冬場は加湿器や洗濯物、濡れタオルにて適切な湿度になるよう工夫している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	廊下、トイレ、浴室には手すりを設置。車椅子用のトイレもある。廊下は長い歩行訓練としても活用している。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	ご利用様様のわかる事、わからない事を把握し分からなくなっても混乱や失敗を防げるように対応している。		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	裏庭に畑があり種まき、収穫を楽しめる。玄関先には花壇があり春にはご利用様と花植えを行っている。また天気の良い日は玄関先の広いスペースにテーブルを置き日光浴をしながらお茶やおやつを食べ楽しんでいる。		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ① <u>ほぼ全ての利用者</u> ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> ① <u>毎日ある</u> ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② <u>利用者の2/3くらい</u> ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② <u>利用者の2/3くらい</u> ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② <u>利用者の2/3くらい</u> ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> ① <u>ほぼ全ての利用者</u> ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② <u>利用者の2/3くらい</u> ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての家族 ② <u>家族の2/3くらい</u> ③ 家族の1/3くらい ④ ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ <u>ほとんどない</u>

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②<u>少しずつ増えている</u> ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②<u>職員の2/3くらいが</u> ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②<u>利用者の2/3くらいが</u> ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②<u>家族等の2/3くらいが</u> ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

個々人の状態に応じて出来る事はご自分でして頂くよう自立支援を意識して介護している。ご利用者様はご自分の役割を持って生活している。週1回音楽療法のボランティア(2Fユニットで介護職として働いていた方)が来て下さり、ご利用者様は歌を唄われたり、楽器の演奏を楽しまれている。